

全国統一要求（抜粋）

- 1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
- 2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
- 3. 過積載復活させるな



建交労全国ダンプ部会

発行所

全日本建設交運一般労働組合

東京都新宿区百人町 4-7-2

電話 03(3360)8021

毎月25日発行

1部 50円

自家用ダンプの就労を守れ

4.24国土交通委員会で質疑



日本共産党・畑野君枝衆議院議員（4月24日国土交通委員会）



答弁に立つ金子恭之国土交通大臣（4月24日国土交通委員会）

大臣答弁

各事業者が契約を結ぶ事で 自家用の使用は違法性なし

全国ダンプ

4月から「違法な白トラ利用の禁止（荷主規制）」の開始前後に自家用ダンプの排除が広がっている中で、全国ダンプ部会は日本共産党畑野君枝衆議院議員に相談し、4月24日に9年ぶりとなるダンプ問題での国会質問を行ってまいりました。

畑野議員は「自家用ダンプの使用は違法なのか」と質問し、金子恭之国土交通大臣は「自家用（白トラ）の開始前後に自家用ダンプの排除が広がっている中で、全国ダンプ部会は日本共産党畑野君枝衆議院議員に相談し、4月24日に9年ぶりとなるダンプ問題での国会質問を行ってまいりました。」と答弁。畑野議員は「各事業者が全て違法と誤解をしていくので、分かりやすい文書での周知を」と改善を求めました。『以下、要旨を紹介します』

「畑野議員」昨年改正された違法な白ナンバートラックに係る荷主等への取り締まりについての確認ですが、従前から建設現場等で仕事している自家用ダンプの使用を違法とするものではないという解釈で良いか伺います。

「金子国土交通大臣」改正法の主体は、『違法な白トラを

利用する荷主への規制』であり、自家用ダンプの使用については罰則を与えるものではありません。

「畑野議員」実際には各地の建設現場等で大変な事態が起きています。建交労から実態を伺ったが、国土省のチャシヤ事務連絡を受けて、『白ナンバートラックへ有償で委託

をしてはいけない』と誤解されています。能登の被災地でも3月末に自家用が排除されたとの報告があるので、直ちに実態をつかんで仕事ができるようにすべきだと思います。

「金子大臣」私の地元熊本でも災害復旧工事等に自家用ダンプが使用されている。誤解が生じる懸念の声も承知し

「畑野議員」自家用ダンプの使用について従前どおりというが、2月の「事務連絡」の内容が分かりづらいので、元請だけでなく現場サイドに分かりやすい文書の発出が必要だと思われまます。

「金子大臣」私の地元でも自家用ダンプが使用できなくなると話が出ました。正確な話として、建設業の中でもダンプと契約関係を結んでもら

「岡野政府参考人」自家用の自己の必要な物を白ナンバードで運ぶことは違法ではないし、建設現場の方が雇用関係を結んで使用することは違法になりません。

ダンプの直工費単価 東京は約6万4千円

「畑野議員」最後に質問します。公共工事における10トン積ダンプトラックの東京地区の2026年度の1日あたりの機械、労務、材料、損耗費のそれぞれの単価及び合計金額について大臣に伺います。

「金子大臣」国土交通省の直轄工事の予定価格の算出に用いている単価は、10トンダンプトラックの1日当たりの単価につきまして東京地区は本年4月時点で、ダンプトラックの機械費用は「30,500円」、運転手への労務費は「25,600円」、タイヤ等の損耗費は「769円」であり、ダンプトラックの機械費用に含まれています。これらの合計は「56,100円」でございます。燃料費の単価については、東京地区における本年4月時点での単価は、一リットル当たり117・5円です。（1日使用量は65リットルで試算している）

車持ちダンプ運転手が1日労働(8時間運転)して貰える単価 (全国) 国土交通省積算単価を踏まえて(全国平均:2026年4月)

	数量	単価	金額	
軽油	88L	144円	12,672円	} (2)
ダンプ損料	1,790万円	10.5年(標準使用年数)	29,500円	
タイヤ損料	道路事情(普通の道路の場合)		1,537円	
諸雑費(まるめ)			6円	
運転手労賃	2省協定2026年3月一般運転手 (全国平均の労務単価)		25,275円	→ (1)
			68,990円	(直工費)

<直接工事費に関する内訳>

●**軽油の単価は**、(財)日本エネルギー経済研究所・石油情報センターの全国平均を使用(スタンド渡し)使用量については、国の標準積算は8時間労働、ダンプ運転時間は5.9時間、65L/日で計算しています。したがって平成28年度から燃料の消費量は「1時間当たり約11リットル」(変化なし)。国交省総合政策局・公共事業企画調整課の調査(直轄工事・地方自治体)により燃料消費率が下がりました。組合員の現場の実態は10時間拘束8時間運転になっている。※実際組合員の平均消費量の88Lで計算しています。(実際は現場の工事内容によって異なります。)

●**ダンプ損料は**、標準使用年数10.5年、基礎価格は**1,790万円(24年比350万円アップ)**です。
*機械損料数量1.25を乗じている「23,600円(10トンダンプの損料/日)×1.25=29,500円」

●**タイヤ損料費は**「普通」の単価として出しています。(変更あり)(現場から処理場(移動先)までの道路事情の事を差しています。)
【良好とは】舗装道路その他これに準ずる良好な搬路の進行。(769円×1.25=961円)
【普通とは】路面がよく維持されている砂利道、これに準ずる搬路の進行。(1,230円×1.25=円1,537)
【不良とは】破碎岩の混入する搬路または河床路その他これに準ずる搬路の進行が主な工事でタイヤ損料が著しいと認められるとき。(2,790円×1.25=3,487円)

●**運転手労賃は**、2省(国交省、農水省)設計労務単価を適用。「2省協定単価とは」前年度元請・下請業者が労働者へ支払った賃金台帳に基づき、調査した結果の良質サンプルの平均賃金を公共工事の積算に適用する労務単価。14年連続で引き上げを実施しています。

<間接工事費に関する内訳>

車持ちダンプ運転手がもらえる諸経費の計算内訳

●**64,770円**(直接工事費)+間接工事費に含まれる金額(労働者の雇用に伴う経費:法定福利費、労務管理費、安全管理費など)を加算しています。車持ちダンプ労働者は自らが必要経費(法定福利費等)の全額を負担しています。したがって、事業者側が労働者の雇用に伴う必要経費として上積みされている経費41%を請求する計算式を組み立てました。

(1)労働者の雇用に伴い必要な経費(労務費+その他の人件費=必要経費)41%
福利厚生費等現場作業における経費の41%を加算します。
25,275円×41%=10,363円を加算します。

68,990円(直接工事費)+10,363円(間接工事費)=79,353円

車持ちダンプ運転手がもらえる単価は、上記金額に消費税(10%)を加算する。

実働8時間稼働 **平均87,288円** (落札率は加味せず)

車持ちダンプ労働者 常用単価87,288円

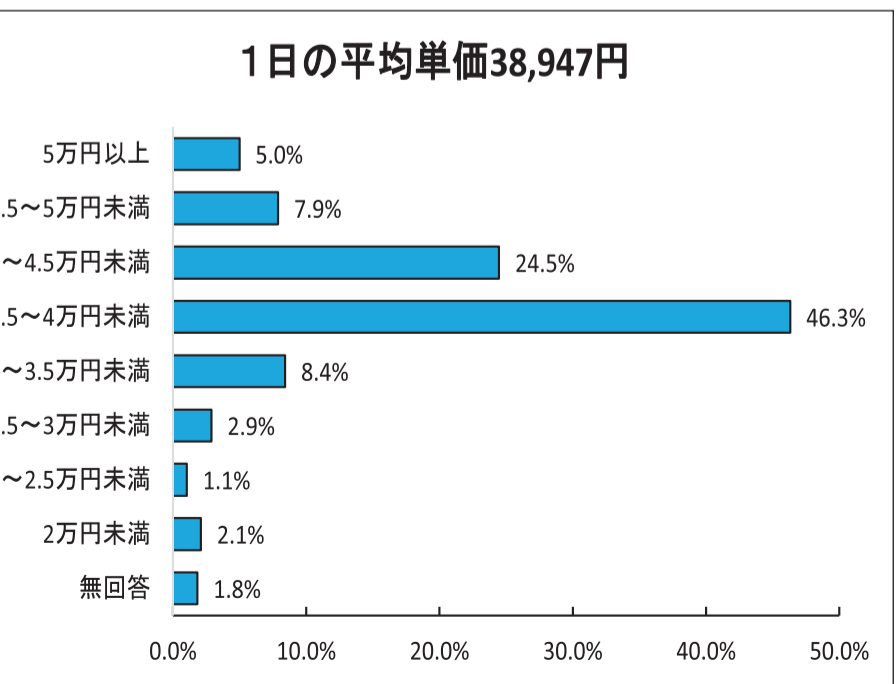
全国ダンプ 直工費単価をダンプへ支払え 発注当局は元請指導の徹底を

国土交通省は、「労務費、車両費、タイヤ、燃料」などのダンプを使用する際に係る必要な経費等の実態を反映し、予定価格を積算して毎年公共仕事を発注しています。この積算方法を踏まえ10トンダンプの常用単価を計算すると図表のようになります。軽油価格は、全国平均のリッター144円(4月時点・税抜き)で計算します。燃料使用量は要求アンケートの実態にもとづき8時間稼働(10時間拘束)で計算しています。今年度は機械損料等の改定

が有りました。国交省の資料によると、ダンプの車両価格は1,790万円(昨年比350万円アップ)、タイヤ価格は1,790万円(昨年比350万円アップ)、タイヤ価格についても若干ですが損料費が引き上げられています。労務単価は賃金は、一般運転手として扱われています。全国平均で昨年比670円引き上げられています。これらを含めた費用『68,990円』が直接工事費となります。さらに国交省は2013年から労働者を雇った際の必要経費(社会保険、労災保険、年金、交通費等)について労

務単価の41%相当分を上乗せできることを示しています。この金額を加えてダンプ労働者の2026年度(令和8年)常用単価の全国平均は87,288円(消費税込み)です。この計算方法は国交省交渉や国会質疑での大臣答弁などでも裏付けられており、全国キャラバン要請行動で各発注当局も認めています。

12年度の「55,805円」でした。26年度は「87,288円」で、約31,500円の引き上げとなっています。建設産業を指導・育成する立場から国交省は、建設労働者の担い手確保と称して労務単価の引き上げや社保未加入対策の強化など、待遇改善を実施してきました。また、2024年に第三次担い手三法が成立し、昨年末に「標準労務費の設定」を施行しています。しかし、ダンプの単価については建設技能者の待遇改善として扱われていません。しかし、ダンプによる土砂搬入・搬出が無ければ土木工事はなりたちません。災害復旧にも欠かせません。



全国平均の常用単価は38,947円。各地で単価改善闘争を展開しよう

全国ダンプ ダンプ要求アンケート 全国で380人を集約

昨年1年間(2025年)の仕事の状況について、北海道から沖縄まで全国の仲間380人からアンケートを集めましたので結果を一部紹介します。第33回全国キャラバンに「①平均常用単価」は38,947円(昨年比864円増)です。3万円~4万円未満が約55%となっています。

「②年間総売上高」の平均額886万円(昨年比17万円減)。200万~400万円18人、200万円未満が7人います。

「③年間純所得」の平均額108万円(昨年比2万円減)。100万円台は52人です。

「④単価引き上げについて」は、約65%が変化なしと回答。引き上げられた方は約30%です。

「⑤建退共手帳の所持及び労災保険加入について」は、現場では建退共手帳の所持を問われないが約9割に達しています。労災保険の加入有無についても約6割が問われています。

「⑥ダンプドライバーの年齢について」は、50代が10人、60代12人、70代も6人、70代も91人を占めています。待遇改善が進まず、次世代の若い労働者が圧倒的に不足しています。